

ゴミ箱をどう活かすか



背景

富山の商業施設を始めとし全国にはゴミ箱が必要なのに「ゴミ箱=管理が面倒くさい/設置したら負け」という認識から置かれていない現状がある。

そこで「ゴミ箱=お金の成る木/宝箱」という認識を当たり前にする」ことを目的として、このプランを考えた。

ポイント

- ・回収コストを広告費でまかなうことができ、事業そのものが持続可能な循環システムとなっている。
- ・資金面でも継続的に剰余が生まれ、運転資金をまかなうだけでなくさらなる社会貢献に向けた発展性も期待できる。
- ・ランニングコストゼロで多くの地域にも応用できるサステイナブルなビジネスモデルとして、オープンソースで多くの地域で社会実装され広く普及されることを目指す。

今後の事業展開

団体設立

○地域の中小企業の賛同を得て、仮称「とやまESG協会」を設立し、10万円/月にてその資金を活用してゴミ箱の設置やごみ箱の管理を行う。

営業

○協会加入企業の広告/宣伝をゴミ箱の表面/HP/SNSを利用して行う。加入企業にとっては会費の負担で刻々とESG活動実績の両面でのメリットが得られる。

- ・直接交渉し会員を増やす。

共同開発

○FORCETEC様との共同研究を進めていき、顧客のニーズに合ったスマートゴミ箱を開発していく。

さらに発展

○開発したうえでさらに会員を増やし、広告費でゴミの回収費用を賄い、余剰資金でさらなる社会貢献に向けた活動をしていく。